

製品名: Gβ5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11868**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	GNB5
別名	GNB5; Guanine nucleotide-binding protein subunit beta-5; Gbeta5; Transducin beta chain 5
遺伝子 ID	10681.0
SwissProt ID	O14775
免疫原	抗血清はヒト GNB5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

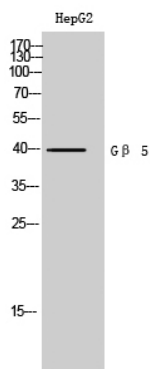
受容体とエフェクタータンパク質間のシグナルを統合するヘテロ三量体グアニンヌクレオチド結合タンパク質（Gタンパク質）は、 α 、 β 、 γ サブユニットから構成される。これらのサブユニットは、関連遺伝子ファミリーによってコードされている。この遺伝

子はβサブユニットをコードしている。βサブユニットは、αサブユニットだけでなく、特定のシグナル伝達受容体およびエフェクターの重要な調節因子である。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが存在する。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (Gタンパク質) は、様々な膜貫通シグナル伝達系において、調節因子または伝達因子として関与している。β鎖とγ鎖は、GTPase活性、GDPからGTPへの置換、そしてGタンパク質とエフェクターの相互作用に必須である。類似性: WDリピートGタンパク質βファミリーに属する。類似性: 7つのWDリピートを含む。サブユニット: Gタンパク質は、α、β、γの3つのユニットから構成される。RGS9 (アイソフォーム RGS9-1)、Gβ5 (GNB5)、およびRGS9BPからなるRGS9-1-Gβ5複合体の構成要素である。組織特異性: 複数の組織で発現する。、

研究分野

PI3K/Akt; インスリン受容体; SAPK_JNK; AMPK

画像データ



Gβ5 ポリクローナル抗体を使用した HepG2 細胞のウエスタン プロット解析。